

言者ムハンマドの婚姻（前）：人生のステジ

:

明:

言者ムハンマドの人生の 々なステジで交わされた婚姻。その1: 言者になる前の彼の人生、そして彼の妻ハディ ジャの死。

目: [事 言者ムハンマド彼の](#)

より: IslamReligion.com

日 05 Mar 2012

集日 05 Mar 2012



言者ムハンマドは、特にアラビア半、そして世界全体の 々な民族を一つの宗教のもとにまとめる任 を った、政治的そして宗教的人物でした。世界がその例に うべく、言者ムハンマドの人生とその 断は、利益と英知にあふれたものだったのです。示が降りたときから、言者は彼の 造主の直接の 督のもと、その生涯を生きました。それゆえに彼は、宗教と正しい人生を む上での ちから守られていたのです。彼の全ての行 は、心にわれなければなりません。神は彼についてこう述べました。

????????????????????????????????????

言者はその任に なる人であり、彼の考えは他の普通の人とは 異なるものでした。これらの理由から、彼が人生において下した 様々な 断について、その理由が深く掘り下げられなければなりません。その中には 理解できるものもあれば、今の 代には少し奇妙に思われるものもあります。つまり、彼の人生を外 だけで判断しては、原因や 理由なしに 断った へと かわかされてしまうかもしれないのです。

言者の人生の 様々な面において、よく勘 違いされ、 断に 解されやすいものは、彼が多くの女性と婚姻したという事 です。このことに 断された英知を理解するためには、この 断が下された背景をよく理解しなければなりません。そうしなければ、この 断に する正しい理解は得られないのです。

言者の家庭生活から 断た人生は、4つのステ ージに分けられます。

第一のステ ージ

彼の人生において、最初の25年 は禁欲的な独身生活でした。若い は普通、自己抑制がまだ育っていないために若年の欲望が 溢れ、危 なることに手を出すものです。さらに、言者が生きた 代のアラブ社会では性行 に する 制がありませんでした。しかし彼は、 断で禁欲的な生活を送り、アミ ン（正直者）と呼ばれるほどだったのです。若いときに自らを抑制できる人はたいてい、年をとってからも自らを律することができます。

第二のステ ージ

そして彼が 断婚したのは、彼より年下の若い 女ではありませんでした。そのかわり、25年 の独身生活を 断えるために 断婚した彼の最初の妻ハディ ジャは40 で、2度の 断婚のある女性でした。彼らは25年 、彼女が死ぬまで幸せな家庭を 断き、この 断に 断言者ムハンマドは他のとも 断婚しませんでした。彼が天 を初めて受け取ったときには、彼女が彼を神の 断言者として信じた最初の人物でした。15 年上の妻が彼の最初の教えに 断ったこと以上に、彼の人格の高さを立 断する事 があるのでしょうか？

彼にはハディ ジャとの 断婚生活の中で、他の女性と 断婚する多くの理由もありました。

に わなければなりませんでした。そのため、何百人もの教友たちが され、多くの寡 と 孤 たちが、面倒を る者がいないまま残されました。言者ムハンマドは、残った教友 に、寡 の面倒を る例を示したのです。そのため、彼の妻たちのほとんどは寡 でした。ただ自らの欲望を たすためであれば、彼の妻として寡 や 婚された妻を ばなかったでしょう。

言者ムハンマドは一人の 女、ア イシャと彼女が幼いときに 婚しました。この婚姻は 言者ムハンマドの性格を不 でモラルがないと批判する批 家の で最も されるものの内の一つです。彼は、ア イシャの父、アブ バクルの めでア イシャと 婚しました。アブ バクルは 言者ムハンマドにとって最も の高く、最も信用された仲 でした。マディ ナへの もこのアブ バクルと共に行いました。なぜこのような仲 の いを断り、 つけることが出来る でしょうか？

このア イシャから、私たちは多くの 言者のスンナ（承）を学びましたし、彼女がいなければ、 山の知 は得られないままだったでしょう。また 言者は、 婚をする ができている者はすぐ 婚するように、という神からの命令に っていました。婚姻の完成とされる 床入り（ニカ フ）は婚 から3年 、ア イシャが女性として成 してからとりおこなわれました。子どものときには、彼女は父の家に住み、ムハンマドはその家を ねていき、彼女と人形 びをしてあげていたのです。

彼の婚姻に するもう一つの理由は、仲 たちとの を固めるというものです。 となる仲 たちの家族や との で婚姻 を ぶことによって、彼は 々な部族から成るイスラ ム教徒たちの を深めようとしてしました。ア イシャのあとに嫁いだどの妻たちも、ア イシャほどの若さ 知性 知的好奇心を えてはいませんでした。全ての妻たちがイスラ ム国家の安泰に各々のやり方で 献しました。そのような男性は、欲望の奴 ではなく、欲望の「い主」と言えるでしょう。彼の婚姻は未来を 越した上で、慈悲的な目的で行われました。もし彼の慈悲からでなければ、彼はア イシャの に、寡 や 婚した女性ではなく、彼女と同じような妻を娶ったでしょう。

Footnotes:

1 ティルミズィ による 承

2 Al-Serah Al-Nabaweyyah, Ibn Hesham, vol. 1, pp. 265-266

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/209>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。